町長コラム

染谷 森雄

今回は、道の駅「ごか」について、報告させていただきます。

平成22年度で開業5周年が経過しました。おかげ様で開業以来、順調に業績を伸ばすことが出来ましたことは、リピーターの皆様を始め、各関係者のご支援・ご協力の賜物であります。心よりお礼申し上げます。

開業時、全体での売上目標は4億5，000万円程度を見込みましたが、初年度で5億、2年目以降は7億、8億、9億、平成21年度は9億5，000万円と予想をはるかに越えた、すばらしい実績を示すことが出来ました。

道の駅「ごか」設立の事業目的である五霞町農業の活性化及び都市住民との交流の場「人・モノ・情報」の発信拠点として、大きな役割を果たしているところです。今では、五霞町の「顔」ともなり、名実ともに県内1位の道の駅となりました。

生産者の皆様の愛情こもった「新鮮で安心・安全な農産物」を求め、埼玉県・東京都を始め、県内外から多くのお客様が来られています。平成21年度のレジ通過者の人数は89万人を超えるほどになりました。イベント開催日や連休期間中などは、店内に入れない程の大盛況で、駐車場についてもスペースがなく止められないなどの苦情も寄せられるほどでした。

この道の駅「ごか」の農産物に関しましては、「少量多品目の販売」を目標に掲げ、生産者の皆様のご協力のもと、現在では、新たな作物に取り組むための組合組織が設立され、町農業の活性化に大きな役割を果たしています。

また、町ではエコ農業茨城推進事業の取り組みを行っているところであり、「五霞農産物生産組合」を中心とする会員の方を含め71名がエコファーマーを取得し、環境に負荷をかけない、安心・安全はもとより「うまい・おいしい」商品の地域ブランド化、特産品づくりに励んでいます。

最近は、多方面からの研修や視察も大変多く、テレビでも二度取り上げられました。

平成21年7月には、県内の町村の首長が五霞町に一同に会して、道の駅「ごか」でのサミットを開催し、県内の特産品販売等のネットワークづくりなどを話し合いました。

今年は、開業6年目を迎えたところですが、この5年間で多くのノウハウを蓄積して来ています。これらを活かし、さらに農産物の安全性の向上を図り、消費者の求める商品の供給を進めるため、若年層や団塊の世代などの新たな農業者の育成を進めていくことが必要となっています。

また、これまで以上に皆様に利用していただくには、駐車場の拡幅、暑さ対策、売場等のリニューアルなど再設備投資も必要となってきているところです。

町では、道の駅「ごか」を活用した町おこしの一つとして、道の駅を拠点とし利根川・江戸川の河川空間への散策ルートの整備や町内企業との連携等も含めた観光ルート化を進めていくことを考えております。

今後、関係機関等のご意見を拝聴して、いろいろな側面から改めて再評価し、インター周辺開発と絡めて、地域活性化の拠点として、夢のもてる「中期経営計画」の策定を進めてまいります。

これからも、住民の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※平成21年度、道の駅経営状況の詳細は、広報9月号でお知らせします。

地域包括支援センターだより

生活機能評価を受けましょう。

65歳以上の方は保健センターの健診時に生活機能評価を受けることができます。（要支援・要介護と認定されている方は対象となりません。）

生活機能評価とは毎日の日常生活を送るために心身の機能で弱いところはないか調べる検査で要支援・要介護状態になることを防ぐためのものです。

年をとれば弱ってくるのは仕方がないとあきらめていませんか。年をとると心身の機能は低下しますが、使い続けること、鍛えることによって現状を維持し向上させることができます。

そのためには、今のご自分の状態をよく知っておくことが大切です。いつまでも住み慣れた家で健やかに暮らしていくためにぜひ生活機能評価を受けましょう。

平成21年度、基本チェックリストを472人の方が行い、そのうち84人の方が生活機能検査に該当し受診しました。検査結果から介護予防教室をご案内した結果、元気あっぷ教室は5人、脳の健康教室は7人、シニア健康づくり教室は2人、健口教室は5人参加されました。

教室の実施前後でアンケートを行ったところ、95％の方に健康状態の維持・改善がみられ、また基本チェックリストを行ったところ、45％の方が改善されました。

元気なうちに早めに介護予防に取り組みましょう。

地域包括支援センターから
基本チェックリスト（黄色の用紙）を郵送

↓

本人が記入し町の総合健診へ持参

↓

会場で内容を確認・判定

↓

生活機能の低下が心配される方
生活機能検査を実施
①問診
②身体計測
③血圧測定
④心電図検査
⑤血液検査
（血清アルブミン、貧血検査）

↓

検査の結果、生活機能の低下がみられ要支援・要介護状態となる可能性のある方は介護予防教室への参加
・元気アップ教室
・シニア健康づくり教室
・脳の健康教室
・健口教室

生活機能の低下がみられない方は終了